

船舶事故調査報告書

平成22年8月26日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵 男（部会長）
 委員 山 本 哲 也
 委員 根 本 美 奈

事故種類	衝突（岩場）
発生日時	平成22年5月22日 07時10～15分ごろ
発生場所	愛媛県宇和島市遠戸島西岸 <small>ひぶり</small> 日振島灯台から真方位080° 5.0海里（M）付近 （概位 北緯33° 11.0′ 東経132° 22.0′）
事故調査の経過	平成22年5月25日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 第二十八 <small>せりょう</small> 盛漁丸、18トン EH2-8364（漁船登録番号）、個人所有 17.43m（Lr）×4.23m×1.65m、FRP ディーゼル機関、367kW、平成元年7月20日
乗組員等に関する情報	船長 男性 33歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成10年3月31日 免許証交付日 平成19年9月11日 （平成25年3月30日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	船首部が圧壊
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、活魚40匹を積み、平成22年5月22日06時35分ごろ、愛媛県宇和島市日振島東岸を出航し、約10ノットの対地速力で、自動操舵により宇和島市戸島と遠戸島の間に向けて東進した。 船長は、活魚の様子が気になり、活魚を入れていた第3魚倉内を見ようとして、操舵室右舷側の扉を開けて身体を外部に出し、扉枠の下縁に左足を、ブルワーク上に右足を乗せた姿勢をとり、左手で扉枠の側縁に手を掛けた。そして、右足に体重をかけて身体を乗り出したとき、身体を支えていた左手が滑ってバランスを崩し、06時50分ごろ、日振島灯台から真方位072° 2.4M付近で、本船の右舷側に落水した。 本船は、無人の状態と同じ針路及び速力で航行を続け、07時10～15分ごろ、遠戸島西岸の岩場に衝突した。
気象・海象	気象：天気 曇り、風 ほとんどなし、気温 約16.1℃、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 下げ潮の末期
その他の事項	船長は、救命胴衣を着用していなかったが、落水した場所付近で立ち泳

	<p>ぎをしていたところ、07時00分ごろ、付近を通りかかった僚船に救助された。</p> <p>船長は、ふだん、魚倉内を見るときには、減速したり、漂泊したりしていたが、事故当時、特に急がなければならない理由はなく、風もなく海上は平穏で、船体の動揺もなかったことから、減速や漂泊をしなかった。</p> <p>操舵室前部の船首甲板には、第1～第7魚倉まであり、船首側1列目に第1魚倉が、2列目に活魚を入れていた第2魚倉が、3列目に第3魚倉が配置されていた。第2及び第3魚倉には仕切りがなく、海水を半分の高さまで入れ、活魚を40匹入れて空気泡を注いでいた。また、第2魚倉の蓋は閉めていたが、第3魚倉の蓋は開けたままであり、その他の魚倉は、空倉で蓋を閉めていた。</p>								
分析	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; padding: 5px;">乗組員等の関与</td> <td style="padding: 5px;">あり</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">船体・機関等の関与</td> <td style="padding: 5px;">なし</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">気象・海象の関与</td> <td style="padding: 5px;">なし</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">判明した事項の解析</td> <td style="padding: 5px;"> <p>本船は、日振島東方沖を戸島と遠戸島の間に向けて東進中、操船中の船長が落水したため、無人の状態です遠戸島西岸の岩場に向けて航行を続け、同岩場に衝突したものと考えられる。</p> <p>船長は、活魚の様子が気になり、魚倉内を見ようとして、操舵室右舷側の扉を開けて身体を外部に出し、扉枠の下縁に左足を、ブルワーク上に右足を乗せた姿勢をとり、左手で扉枠の側縁に手を掛けて身体を乗り出したとき、身体を支えていた左手が滑ってバランスを崩し、本船の右舷側に落水したものと考えられる。</p> <p>船長は、06時50分ごろ、日振島灯台から真方位072° 2.4M付近で落水したものと考えられる。</p> <p>船長は、ふだん、魚倉内を見るときには、減速又は漂泊していたが、風がなく海上が平穏で船体の動揺がほとんどなかったことから、減速又は漂泊しなかった可能性があると考えられる。</p> </td> </tr> </table>	乗組員等の関与	あり	船体・機関等の関与	なし	気象・海象の関与	なし	判明した事項の解析	<p>本船は、日振島東方沖を戸島と遠戸島の間に向けて東進中、操船中の船長が落水したため、無人の状態です遠戸島西岸の岩場に向けて航行を続け、同岩場に衝突したものと考えられる。</p> <p>船長は、活魚の様子が気になり、魚倉内を見ようとして、操舵室右舷側の扉を開けて身体を外部に出し、扉枠の下縁に左足を、ブルワーク上に右足を乗せた姿勢をとり、左手で扉枠の側縁に手を掛けて身体を乗り出したとき、身体を支えていた左手が滑ってバランスを崩し、本船の右舷側に落水したものと考えられる。</p> <p>船長は、06時50分ごろ、日振島灯台から真方位072° 2.4M付近で落水したものと考えられる。</p> <p>船長は、ふだん、魚倉内を見るときには、減速又は漂泊していたが、風がなく海上が平穏で船体の動揺がほとんどなかったことから、減速又は漂泊しなかった可能性があると考えられる。</p>
乗組員等の関与	あり								
船体・機関等の関与	なし								
気象・海象の関与	なし								
判明した事項の解析	<p>本船は、日振島東方沖を戸島と遠戸島の間に向けて東進中、操船中の船長が落水したため、無人の状態です遠戸島西岸の岩場に向けて航行を続け、同岩場に衝突したものと考えられる。</p> <p>船長は、活魚の様子が気になり、魚倉内を見ようとして、操舵室右舷側の扉を開けて身体を外部に出し、扉枠の下縁に左足を、ブルワーク上に右足を乗せた姿勢をとり、左手で扉枠の側縁に手を掛けて身体を乗り出したとき、身体を支えていた左手が滑ってバランスを崩し、本船の右舷側に落水したものと考えられる。</p> <p>船長は、06時50分ごろ、日振島灯台から真方位072° 2.4M付近で落水したものと考えられる。</p> <p>船長は、ふだん、魚倉内を見るときには、減速又は漂泊していたが、風がなく海上が平穏で船体の動揺がほとんどなかったことから、減速又は漂泊しなかった可能性があると考えられる。</p>								
原因	<p>本事故は、本船が、日振島東方沖を戸島と遠戸島の間に向けて東進中、船長が、魚倉内を確認しようとした際、落水したため、無人の状態です遠戸島西岸の岩場に向けて航行し、同岩場に衝突したことにより発生したものと考えられる。</p>								